

第2回 福島県現代詩集賞結果発表

第2回福島県現代詩集賞（福島県現代詩人会主催）の受賞者が次のとおり決定しました。

表彰式は、令和元年6月23日（日）午後1時15分から郡山市ビッグパレット7階「第3会議室」で行われます。

《福島県現代詩集賞》

作者 大山 いづみ

作品 「命の音」

作者 大山 いづみ （日野市神明）

略歴

1955年 平田村生まれ

2011年 石川町在住、震災後、日野市に移る

2012年 詩小説『ボクと大地』

英訳：「Myself and the Earth」

（翻訳 ニール・ククルカー テネシー州出身 石川町ALT）

2017年 詩集『心の風景と地下室』

2018年 7月7日 「いわき七夕朗読会」に参加（草野心平文学記念館）

7月8日 初めて「被災地」を巡る

《受賞作品》

「命の音」

大山いづみ

震災から七年 なかなか足が向かなかった
やっとでかけたのは昨年だった
仲間と一緒に富岡 大熊 双葉 帰還困難区域
そして浪江町の請戸地区へと
足を踏み入れた
請戸地区には魂の音が鳴る
ポケットには数珠が入っている
虫が鳴くには早すぎるチツチツチツ
どんだん集まる音 チチチチツ
もしかと思いい珠を出す
一斉に鳴り出す音の数々
請戸地区には命の音が鳴る
原発事故で誰も入れなくなった場所
あの日の津波に飲まれ助けを求めた魂
地鳴りの叫びに消されたか
この世の終わりと思っただろうか
嘆きの声は波に盗まれたか
請戸地区には命の音が鳴る
大きな揺れは
大地を破り

海を押し潰した
行き場のない海水は津波となって
陸を削った
追いうちをかけたのは
原発だ
安全だとされていたはずの
原発は助かったはずの命さえ
むしり取った
私は知っていた いや感じていたのだ
今だ嘆き悲しむ人達がいることを
だからこそ来れなかった
だからこそ来たかった この矛盾
数珠は持って来ていた
祈りを捧げに来た
祈るごとに消えていく音
そして集まってくる音に祈りを捧ぐ
迷うことなく成仏を願いながら
請戸地区を後にした